

第19回 ジャパンオープンハンドボールトーナメント 戦評報告書

競技日	平成26年 8月10日	試合番号	D-コ
種別・回戦	女子・準々決勝	会場	貴志川体育館

きょうとくらぶ 京都クラブ			えいちしーながさき HC長崎			得点チェック欄	
17	7	前半	9	14	前半	<input type="checkbox"/>	
	10	後半	5		後半	<input type="checkbox"/>	
		第1延長 前半			第1延長	<input type="checkbox"/>	
		第1延長 後半			第2延長	<input type="checkbox"/>	
		第2延長 前半			7mTC	<input type="checkbox"/>	
		第2延長 後半			合計点	<input type="checkbox"/>	
		7mTC			記録主任確認	<input type="checkbox"/>	

戦評	戦評委員氏名	今西 千晶
----	--------	-------

京都クラブに対して、今年度国体開催のHC長崎がどのような展開を見せるかが楽しみなカードとなった。先手を取ったのはHC長崎。11番平川のロングシュート、8番松田の速攻で幸先の良いスタートを切る。対する京都クラブも両サイドからのシュートで応戦。1点ずつ得点が積み上がっていくシーソーゲームとなった。7分過ぎにはHC長崎12番三好の好セーブによって2番黒木が連続速攻を決めた。京都クラブは6番泉本のシュートで追い上げを図り、積極的な守備でHC長崎のリズムを崩し、7mスローで同点に追いついた。互いに得点の取り合いになったが、HC長崎11番平川のロングシュートがきまり、HC長崎が2点リードで前半を終えた。

後半、京都クラブはコンビプレーのポストシュート、キーパーの好捕から5番上村のサイドシュート、10番山本の速攻で逆転に成功。3点差をつけた。HC長崎は巧みなボールまわしで、後半22分に2番黒木のブラインドシュートで1点差に詰めよった。しかし、京都クラブがポストシュート2本と速攻で突き放した。両チームとも気迫ある好ゲームだった。

送信担当記録委員	的場 知嘉子
----------	--------